

審議会会議録

1 会議の名称	令和2年度第2回富津市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和2年11月18日（水） 午後1時30分～午後2時58分
3 開催場所	富津市役所本庁舎5階 503・504会議室
4 審議等事項	議題 （1）保育所の役割について （2）富津市公立保育所適正配置に係る基本方針について （3）私立青堀保育園の利用定員の変更について （4）その他
5 出席者名	○出席委員 真下めぐみ、安藤鮎香、菊地洋子、佐久間啓、岩濱真也、宮原俊一、有馬佐知子、飯田裕美、平野香織、今井常夫、都倉康宏、古川哲也、諸岡賛陞、大畑光 ○事務局 坂本健康福祉部長、中山子育て支援課長、澤邊子育て支援課長補佐、水島子ども家庭係長、荒木主任主事、山口健康づくり課主査、平野学校教育課指導主事
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人（定員5人）
9 所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

会議録署名委員

会議録署名委員

令和2年度第2回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局：荒木主任 主事	<p>皆様こんにちは。</p> <p>本日、会議の進行を務めさせていただきます、子育て支援課子ども家庭係の荒木と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>○会議資料</p> <p>資料 1：保育所の役割</p> <p>資料 2：富津市公立保育所適正配置に係る基本方針 参考資料：富津市公立保育所民間移管の動き</p> <p>資料 3：特定教育・保育施設（特定地域型保育事業者） 利用定員減少届</p> <p>机上配付：次第、委員名簿、席次表、富津市LINE公式アカウント友だち募集チラシ、ふつつ子育てきずなLINE案内チラシ</p> <p>その他：第Ⅱ期富津市子ども・子育て支援事業計画書</p> <p>○会議の成立</p> <p>ここで、本日の委員の出席状況をご報告いたします。</p> <p>15名の委員のうち、委員名簿2番の村治委員におかれましては、本日欠席でございます。</p> <p>14名の方が出席され、過半数を超えておりますので、富津市子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>○会議の公開</p> <p>この会議は、富津市情報公開条例第23条の規定により、会</p>

発言者	発言内容
事務局：荒木主任 主事	<p>議を公開することとなっております。なお、本日の傍聴人はおりません。</p> <p>なお、会議録作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、ご了承くださいますようお願いいたします。</p> <p>(次第1 開会)</p> <p>ただいまから、令和2年度第2回富津市子ども・子育て会議を開会いたします。</p> <p>議事に入る前に、諸岡会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくをお願いいたします。</p>
諸岡会長	<p>(次第2 会長挨拶)</p> <p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日はお忙しい中、出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の議題は、保育所の役割について他3議案になります。前回のときに、今年度の議題として保育所の適正配置についてを重点的にということでお話させていただきましたけれど、今回から少しずつ会議の方を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>また、先ほど案内のありました市公式LINEについてですが、今までのメール等より大変使いやすくなっていますので、ぜひ皆様からも宣伝していただければと思っていますので、どうかよろしくお願ひします。</p> <p>本日はよろしくお願ひいたします。</p>
事務局：荒木主任 主事	<p>ありがとうございました。会長には引き続き、議事の進行をお願いいたします。</p>

発言者	発言内容
諸岡会長	<p>(次第3 会議録署名人の指名)</p> <p>それでは、次第に沿いまして、議事を進めさせていただきます。</p> <p>まず、本日の会議録署名委員を指名したいと思います。私のほかに、慣例により委員の中からお一人をお願いしております。本日は、真下委員をお願いしたいと存じますので、よろしく願いいたします。</p>
諸岡会長	<p>(次第4 議題)</p> <p>それでは、次第4の議題に入ります。</p> <p>議題(1) 保育所の役割についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。</p>
事務局：澤邊課長 補佐	<p>(資料1：「保育所の役割」を使用)</p> <p>それでは、議題(1)「保育所の役割について」をご説明させていただきます。</p> <p>今回、保育所の適正配置を行うにあたりまして、これからご議論いただく、公立保育所とはどんな役割を担っているのかということで議題に上げさせていただきました。また、小学校に上がる前の子ども達の過ごす場所には、保育所以外にどのようなものがあるのか、それぞれの役割・特性にはどんな違いがあるのか、委員の皆様の認識を改めて揃えさせていただきたいという趣旨でご説明させていただきたいと思います。</p> <p>それでは、資料1をご覧いただきたいと思います。</p> <p>「1 就学前施設の役割」といたしまして、最初に(1) 保育所・保育園の役割については、児童福祉法に基づき、家庭で保育ができない保護者に代わって保育を行い、健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設に該当します。</p>

発言者	発言内容
	<p>入所する子どもの最善の利益を考慮し、福祉を積極的に増進することにふさわしい生活の場としております。</p> <p>また、その目的を達成するために、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携のもとに、子どもの状況や発達過程を踏まえ、保育所における環境を通して、養護及び教育を一体的に行うことを特性としています。</p> <p>(2) 幼稚園の役割については、幼稚園等施設は、学校教育法に基づく教育施設、学校であり、幼児が家庭での成長を受け、集団活動を行いながら、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教員等に支えられながら、幼児期の豊かさに出会う場としております。</p> <p>3歳以上の幼児を対象として、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする学校であって、小学校以降の生活や学習の基盤を培う学校教育の始まりとしての役割、次代を担う子供たちが人間として心豊かにたくましく生きる力を身につけられるよう、生涯にわたる人間形成の基盤を培う普遍的かつ重要な役割を担っております。</p> <p>(3) 認定こども園の役割については、就学前の子どもに対し教育・保育を一体的に提供する施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持つ施設であります。</p> <p>次に、「2 公立保育所と私立保育園の比較」についてですが、公立、私立とも、国の制度や法律による枠組みや実施基準が同じ認可保育施設であります。</p> <p>運営主体に関わらず、それぞれ保育所保育指針を基本とした質の高い保育の提供と子育て支援における多様なニーズに取り組んでおります。</p> <p>保育料等は、保護者の市町村民税の課税状況に応じて決定しております。</p>

発言者	発言内容
	<p>行政及び公的機関との連携が公立としての優位性はあるものの、公私立ともに必要に応じて母子保健や教育部門との連携を図るネットワークの構築が進められております。</p> <p>富津市の保育を考える上では、保育所、保育園以外にも幼稚園や事業所内保育施設などの地域型保育事業などとの連携が必要であると考えます。</p> <p>(1) 公立保育所の特性についてですが、公立保育所は、市の直営施設として、市内いずれの保育所においても同一のマニュアル等に基づいて、一定水準のほぼ均一な保育サービスを提供しておりますが、個別ニーズへの対応が困難であるという側面もあります。</p> <p>(2) 私立保育園の特性については、均一な保育サービスが求められる公立保育所と違い、私立保育園は園独自の保育理念や保育方針に沿って、個性のある取り組みを行っております。</p> <p>また、私立保育園は、職員の勤務体制など柔軟な施設運営が可能であることから、保護者のニーズに応じ、延長保育・土曜保育・一時保育などに柔軟かつ迅速に対応できるという特性があります。</p> <p>次に、「3 教育・保育の提供」の(1)サービスの類型といたしまして、子ども子育て支援法では表の中ほどの「施設・事業等」がありますが、富津市では、認可保育園、幼稚園型認定こども園、新制度に移行しない私立幼稚園、認可外保育施設、預かり保育事業などがあります。</p> <p>表の中ほどにあります「地域型保育給付」に係る事業につきましては、裏面(2)地域型保育事業の比較として事業主体、認可定員等を記載いたしました。</p> <p>(3)の特別保育の内容についてですが、通常の保育のほかに、保護者のニーズに応じた保育を実施している施設を記</p>

発言者	発言内容
諸岡会長	<p>載いたしました。</p> <p>議題（１）の説明は以上で終わりますが、次の議題（２）の参考にしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>事務局の説明が終わりました。</p> <p>いま、事務局からもありましたけれども、議題（２）のほうで用語が頻繁に出てきます。保育所と幼稚園の役割もかなり違ってきていると思いますし、また保育所の中で幼稚園的なものも運営したりするところも認定こども園等が出てきております。用語の中で不明な点などがありましたら、ご質疑いただければと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
各委員	<p>（質疑等なし）</p>
諸岡会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>質疑がないようですので、次に、議題（２）富津市公立保育所適正配置に係る基本方針についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。</p>
事務局：中山課長	<p>（資料２：「富津市公立保育所適正配置に係る基本方針」、参考資料：「富津市公立保育所民間移管の動き」を使用）</p> <p>それでは、議題（２）「公立保育所適正配置に係る基本方針について」を、資料２に沿ってご説明いたします。</p> <p>この基本方針は、前回の会議でご説明いたしました公立保育所の抱えております課題を解決するため、取り組むために、今後、市が定める公立保育所の適正配置の柱となる部分をまとめたものです。</p> <p>１ページをご覧ください。</p>

発言者	発言内容
	<p>「1 基本的な考え」では、公立保育所の適正配置を進める目的を示しております。</p> <p>富津市に暮らす小学校へ上がる前のすべての子どもが、質の高い保育や幼児教育を受けることができ、そして生きる力の基礎を培うことができるよう保育や幼児教育の環境を整えるために、公立保育所の適正配置を進めていくこととしております。</p> <p>再配置や統廃合と聞きますと、数の多い少ないだけを見ているような印象を持たれることもあるかと思えます。富津市が目指す姿としては、人間形成で極めて重要な時期である、小学校に上がる前の大切な時期に子どもたちが生涯にわたり生きる力の基礎を培うことができるよう、環境を整備することと私たちは考えています。</p> <p>次に、「2 目指すべき基本方向」は、公立保育所が今後どのような方向を目指すのか、3点あげております。</p> <p>まず、「適正な集団規模の確保」です。社会環境の変化から、保育利用を希望する児童の低年齢化が進んでおり、0歳児から2歳児までの保育需要は今後さらに拡大することが見込まれております。その一方で、3歳以上児のニーズには十分応えることができっております。このような年齢間の需給バランスの改善を図り、一定規模の集団を維持できるよう再配置を進めます。今後も子どもの数の減少に歯止めがかからないことが見込まれているため、公立保育所だけでなく、民間事業者の設置する保育園、幼稚園等も将来にわたって安定した経営が継続されることも重要であり、公立保育所の再配置にあたっては、就学前の子どもの居場所全体を俯瞰し、検討する考えです。</p> <p>2点目の「公立施設の適正な配置の検討」では、施設の配置は利用が見込まれるニーズ量の存在や私立の施設の配置状</p>

発言者	発言内容
	<p>況、今後の人口推計の推移等を全体的に勘案し、バランスをみた配置となるよう検討を進めることとしております。</p> <p>また、施設の集約を行う場合、保護者や地域のニーズに十分配慮し、必要なサービスの拡充や機能強化を検討してまいります。</p> <p>2 ページをご覧ください。</p> <p>3 点目の「量的・多様化する保育ニーズへの対応」では、子どもの数は減少していても、保育に対するニーズは多様化しています。すべてのニーズに公立保育所として応えることは困難であり、民間施設の独自性や柔軟性など、それぞれの特色や役割を活かし、市全体の保育の質の向上を目指し、お互いに協力して保育ニーズへ対応していきたいと考えております。</p> <p>続いて、「3 基本方向を実現するための視点」です。</p> <p>先ほどご説明した「基本方向」を実現するために持つ視点を記載しております。</p> <p>1 つ目の視点として「公立保育所の統廃合を視野に適正配置を進める」では、重ねての説明になりますが、現状の配置保育士数では対応しきれっていない3歳未満児の保育需要や多様な保育ニーズへの対応のためには、従事する保育士も必要になります。このため、公立保育所の統廃合も保育士確保の方策の一つとして、適正配置を進めることといたします。</p> <p>2 つ目の視点は「民間活力の積極的な活用」です。現在でも民間事業者が運営する私立保育園等は、待機児童の解消や多様な保育ニーズへの対応に積極的に取り組んでいただいております。</p> <p>また、運営に係る経費は、国・県・市それぞれ割合に応じた負担があり、市が全額負担する公立とは市の財政に与える影響は大きく、限られた財源で効果的に事業を実施するため</p>

発言者	発言内容
	<p>には、民間事業者の活力を導入する、民間移管を進めることといたします。</p> <p>均一的、不変的（不偏的）な保育を提供する公立保育所とは異なり、機動性や柔軟性を持つ民間事業者は利用者のニーズにスピーディに応えることができると考えております。</p> <p>また、公立保育所の統廃合により、新たに生まれる財源や人材を、市が取り組むべき課題に振り分けることが可能となり、富津市全体の子育てサービスの質の向上、拡充を図ることといたします。</p> <p>3つ目の視点は「公共施設等総合管理計画との整合」です。</p> <p>箱モノと言われる公共施設は、経済成長を背景に人口増加に比例し建築が進められました。本市の多くの公共施設が昭和40年代後半から50年代後半にかけて集中して建築されております。これは将来的に一斉に更新時期を迎えることとなり、膨大な財政負担が必要になると見込まれております。次世代の負担を出来る限り軽減し、平準化するために、公共施設の再配置を着実に実行していくこととした「富津市公共施設等総合管理計画」を2016年3月に策定いたしました。</p> <p>このなかで、公立保育所も「今後の児童数や民間施設の状況、地域のバランス等を踏まえて、統廃合を検討します」と位置付けております。今までと同じやり方では公共施設のサービスを維持・継続できないため、公立保育所を含めた公共施設保有総量の削減に取り組む必要があることを記載しております。</p> <p>続いて「4 基本的な方策」ですが、方向性、視点をもち、とる方策を列記しております。</p> <p>1点目は、基本的には公立から民間事業者への移管、または民間施設の拡充を促します。市内でも民間事業者の参入が見込めない地域や規模の施設は集約した後、廃止いたします。</p>

発言者	発言内容
	<p>集約も難しい場合は、必要に応じて公立として継続することといたします。</p> <p>2点目、現在3歳未満児において、希望の保育園に入園できないお子さんがいることを勘案し、3歳未満児対応の小規模型保育事業者を公募し、新設により、受け皿の増を図ります。</p> <p>3点目、施設の統廃合を行う場合でも、乳児の移動はリスクが高いことから集約せず、小規模型保育所として現在所在する地域において保育を実施することといたします。</p> <p>4点目、施設の統廃合を行う場合、3歳以上児は3点目の小規模型保育所を送迎ステーションとし、統合先の保育施設において集約して保育を実施いたします。</p> <p>5点目、小規模型保育所兼送迎ステーションは、原則現在の保育所施設は使用せず、その地域に所在する施設の活用を協議することとしております。</p> <p>6点目、5点目の施設は集約した後の児童数が収容不可能となる場合は、既存の保育所施設を継続して使用する場合がありますことを記載しております。</p> <p>次に、「5 スケジュール」です。</p> <p>本日、このあとの基本方針にご意見を頂戴いたします。いただいたご意見等を参考に、具体的な配置のたたき台を次回以降の会議に提示させていただきます。そして、令和3年度中に何回か会議を開催いたしまして、適正配置計画としてまとめていく考えでおります。</p> <p>その後、実際に統廃合を進めるにあたっては、民間事業者が大きく関わってきますので、その意向・動向を注視し、時期を逃さないことが肝要と考えますが、なにより、利用されている保護者やこれから利用を予定されている保護者の皆様のご理解を得て、進めることといたします。</p>

発言者	発言内容
	<p>基本方針の説明は以上ですが、当市でも過去に民間移管に取り組んだ経緯がありますので、ここで説明させていただきます。</p> <p>参考資料「富津市公立保育所民間移管の動き」をご覧ください。</p> <p>この資料は、公立の青堀保育所を民間に移管した経緯をまとめたものです。</p> <p>平成10年8月に策定した「第一次富津市行財政改革大綱」に民間活力の活用が位置付けられ、行財政改革大綱推進部門別部会「保育所民間委託検討部会」において、その可能性の調査検討が開始されました。</p> <p>その後、平成15年8月、外部委員で構成する「富津市公立保育所民間移管検討委員会」を設置し、平成16年3月に検討結果が報告されました。そこで「平成18年度青堀保育所、平成19年度飯野保育所、平成20年度中央保育所」をそれぞれ民間に移管することが提言されております。</p> <p>この提言を受け、平成16年6月「富津市公立保育所民間移管受諾法人選考委員会」を設置し、民間移管の条件や内容、選考基準等を検討し、受諾法人の選考を行いました。公募に対し、2法人から応募があり、社会福祉法人高砂福祉会が受諾法人となり、平成18年4月から「青堀保育園」としてスタートいたしました。</p> <p>民間移管の際に受諾後3年間は受諾法人、市及び保護者による三者懇談会の開催を求めていたことから、平成18・19・20年度と、選考委員会によって移管後の保育について検証が行われました。そして、平成20年12月に選考委員会として検証結果を「富津市公立保育所民間移管に係る最終報告書」としてまとめております。</p> <p>ここで「選考委員会としては青堀保育所の民間移管について</p>

発言者	発言内容
<p>諸岡会長</p>	<p>ては大きな不都合もなく、成功事例であったと評価」されました。しかしながら、併記された各委員から提出された自由意見が勘案され、平成 16 年 3 月の「富津市公立保育所民間移管検討委員会」の提言に謳われた飯野保育所、中央保育所の民間移管については、その方向性を含めて再考する余地があるものとする」といった意見が付記されました。</p> <p>市では、この意見を受けて庁内検討会議において検討し、平成 24 年 3 月に「現状を総合的に勘案したところ、飯野・中央保育所の民間移管については、現段階では実施できない」とし、民間移管を一時的に凍結、現在に至っております。</p> <p>以上が過去の公立保育所民間移管の動きです。</p> <p>平成 24 年 3 月の報告では、市が将来的に民間移管という考えをとらないとしたものではなく、「今後の課題」として、児童数に対し施設が過剰となる場合には、民間施設を考慮しながら保育所の統廃合の検討の必要性を明示しております。</p> <p>現在までの間に児童数の減少に歯止めがかかっていないこと、この先も施設の規模までの児童数が増加することは見込めないことから、第 1 回の会議においてご説明した公立保育所を取り巻く様々な課題を解決し、より良い保育環境を整備するため、凍結していた民間移管を含めた形での統廃合を進めることといたしました。</p> <p>今後、適正配置を円滑に進めるため、進め方について委員の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。よろしくお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、以上で議題（2）の説明とさせていただきます。</p> <p>事務局の説明が終わりました。</p> <p>ご質疑、意見等がありましたらよろしくお願いいたします。</p>

発言者	発言内容
今井副会長	<p>確認ということで1つ質問させていただきたいと思うのですが、この適正配置についての視点が2つあると思うのですが、1つが3歳児以上の教育保育の質を担保するということで、一クラス20人以上というご提案があったわけなのですけれども、令和2年の入所児童数・園児数というところを見ると、すでに公立の保育所については20人を満たしていないということですよね。そうすると、全保育所がこの適正配置の対象として考えているのかというところが1点目。</p> <p>それから、2点目の確認ですが、0歳児から2歳児までのところは、どちらかというと保護者のニーズに対応した適正配置をしていきたいと思いますというご提案だったというふうに思います。その場合に、小規模型保育事業者の公募という視点と、それから公立の保育所として0歳児から2歳児までを預かるという2つの視点でこの間のところはクリアしていこうというふうに考えているという整理の仕方よろしいでしょうか。</p>
事務局：中山課長	<p>1点目ですが、全公立保育所を対象とするかというご質問には例外なく、まずは検討には公立保育所全部を対象といたします。その後、先ほどもご説明いたしましたが、位置や地域的なバランス等で、また民間事業者の引き合いというのでしょうか、採算が取れないようなところには民間事業者は手を挙げてきませんので、そういったものを勘案して公立として継続しなければならないものは残っていくというふうには考えております。</p> <p>2点目の小規模の保育所に関しましては、まずは民間の活力というところで公募を考えています。それでも引き受け手がない場合は、公立での保育の実施というふうに考えております。</p>

発言者	発言内容
今井副会長	はい。ありがとうございます。
諸岡会長	<p>ほかになにかありませんでしょうか。</p> <p>疑問に思ったこと、要望的なものでもよろしいので、なにかありましたらお願いしたいと思います。</p>
今井副会長	<p>資料2の2ページの中に、「互いに協力して保育ニーズへの対応を行います」という形で謳われています。さらに、民間活力の積極的な活用というところに「効率化により生まれる財源や人材等の資源を活用し、市としても取り組んでいきたい」というようなところがございます。これは富津保育園にしても、うち（みなと幼稚園）にしても、市から協力していただいていることもあるのですが、やっぱり他市と比べると、そういう財源ですとか人材ですとか、もうちょっと考えていただければなという声はあると思うのですね。ぜひ、この再配置、適正規模の部分も含めて、市内の子どもたちを預かれる私立保育園、それから幼稚園、認定こども園等についてのそういう財源的な部分を含めて更なる援助を市としても考えていただければなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局：中山課長	<p>最初に私の方から申しあげましたように、適正配置というのは数合わせではなく、子どもたちのために良い保育・教育の環境を整えていくことが目的というふうに考えております。また、市長の公約で「子育てしやすいまち日本一」を目指すというふうに申しあげております。この実現のために、より良い環境整備に子どもたちのために財源を、ということですので、それは検討してまいりたいと考えております。</p>

発言者	発言内容
諸岡会長	<p>私から一つよろしいでしょうか。</p> <p>保育所のそもそもの設置というのは、やはり女性の社会進出を補助するため、また、核家族が進んだ中で、家庭で保育できないということの補佐をするために保育所というものは設置されていると思います。その中で、再配置を行うことで、また女性の働き方が困難になるような配置がないようなやり方をとっていただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
事務局：中山課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>何度も繰り返しになってしまいますけれども、公立の都合でというのではなく、今までと違ったやり方をして、ニーズに少しでも応えていこうという思いでこの適正配置を進めていきたいと思っておりますので、お母さんたち、お父さんたちの声に耳を傾けながら進めていきたいと思っております。</p>
諸岡会長	<p>ほかに、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p>
各委員	<p>(質疑等なし)</p>
諸岡会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、次回以降、具体的な配置のたたき台が示されるとのことでしたので、委員の皆さんから出た意見等を参考に、進めていくように、事務局にはお願いしたいと思います。</p> <p>続いて、議題（3）私立青堀保育園の利用定員の変更についてを議題といたします。事務局の説明を求めます。</p>

発言者	発言内容
事務局：澤邊課長 補佐	<p>(資料3：「特定教育・保育施設（特定地域型保育事業者）利用定員減少届」を使用)</p> <p>それでは、議題（3）「私立青堀保育園の利用定員の変更について」ご説明いたします。</p> <p>資料3「特定教育・保育施設（特定地域型保育事業者）利用定員減少届」をご覧ください。</p> <p>本件につきましては、昨日、青堀保育園を運営する社会福祉法人高砂福祉会より話があり、現在の利用定員120人を令和3年度から90人に変更したいとのことでした。</p> <p>利用定員の変更につきましては、子ども・子育て支援法第35条第2項の規定により、県へ届け出ることで変更できますが、この子ども・子育て会議において意見を頂戴したく、議題といたしました。</p> <p>これまでの経緯といたしましては、平成18年の高砂福祉会に移管時200人の利用定員でありましたが、平成31年4月に保育士不足により受け入れられる児童に限られるということで、安定した保育の実施を行うために定員を200人から150人に変更し、さらに令和2年4月にも同様の理由により、定員を150人から120人に変更した経緯がございます。</p> <p>そしてこの度、利用定員120人を90人に変更したいとの申し出がございましたので、子ども・子育て会議で意見を頂戴するにあたり、本日は、青堀保育園を運営する社会福祉法人高砂福祉会より、理事長の篠塚氏ほかの方が変更についての説明のため来庁しております。この後、同席して説明を求めることとしてよろしいか、委員の皆様方にお伺いしたいと思います。</p>
諸岡会長	<p>只今、事務局から提案のありました事業当事者の同席を認めることとしてよろしいでしょうか。</p>

発言者	発言内容
各委員	(異議なしの声)
諸岡会長	<p>それでは、高砂福祉会の入室準備のために、会議を一時休憩といたします。10分ほど休憩したいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
諸岡会長	<p>(社会福祉法人高砂福祉会関係者 入室)</p> <p>それでは、皆さんお揃いのようなので、休憩前に引き続き、会議を再開いたします。</p> <p>先程、事務局より利用定員の変更について経緯の説明がありました。設置主体の社会福祉法人高砂福祉会から本件の内容説明をお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。</p>
高砂福祉会：篠塚理事長	<p>只今、ご紹介いただきました社会福祉法人高砂福祉会と申します。平成18年から公立だった青堀保育所を移管ということでさせていただいて、今日まで子育て支援課の皆様のご指導の下、大きな事故や怪我なく運営することができましたこと、改めまして御礼申し上げます。本日は貴重なお時間を頂きまして本当にありがとうございます。</p> <p>利用定員の変更ということで、90名の定員で出させていたいただいた経緯をお話させていただきます。</p> <p>元々は200名が定員の立派な保育園でございます。私どもも最初の平成18年のときに122名を移管ということでスタートさせていただきました。その後、定員の200名を超える年度もございましたが、入所児童が年々減ってまいりました。この定員を満たすようなことは年度をまたいでから厳しくなりまして、毎年の児童数減に伴う委託費の減少と、建物も老</p>

発言者	発言内容
	<p>朽に関わるということで施設整備をせざるを得ないというような判断の中で、トータルで私どもがやってきた10年ほどの間に約6,000万円近い改修をかけながら今日続けております。</p> <p>さらに、どこでもよく言われる保育士不足、これは高砂福祉会もいろいろ法人全体で異動だとか取り組んでまいりましたが、人材紹介会社にもここ数年お願いしてきて、トータルで800万円以上費用をかけて職員の採用等をしてまいりましたが、なかなかこちらの園へは人材紹介会社もできないというふうに言われて、本当に苦しい状況下の中で、職員確保ができない、児童数の減少、それから施設整備の費用など、そういったもろもろのことがありまして、このまま私どもが青堀保育園の運営をやっていくことは大変危機的なのというか、すでに累積としては赤字計上の保育園でございまして。ただやはり、今日も子どもさんたちを見ていると明るく元気に、職員も頑張ってくれているので、いつもなんとか踏ん張ってと思うのですけれども、決算上の数字であったり、富津市の今後の児童数の状況を見ていくと、あれだけの立派な施設がありながらそれだけの業績予測ができない。私どもの力不足と言われてしまえばそうなのかもしれませんが、私ども他のエリアでもやっておりますけれども、こんなに厳しい状況は正直こちらなので、今は定員減ということでお願いさせていただいて、できれば来年4月から90名の入所であればなんとか職員にお給料も払えて運営がかるうじてなんとかできるかなという状況でございます。</p> <p>決して今までのマイナスの部分が補填できるということではないのですが、私どもとしては、先々を考えるとあと2年を一つの目途としてというか、それで事業者としてできればご辞退させていただきたいということを含めて皆様にお話し</p>

発言者	発言内容
	<p>せていただきたいと思って今日まいりました。</p> <p>理由につきましては、人口が減っていること、入所児童が減っていることイコール委託費が減り、職員の確保のほうもなかなか退職というのはその人の自由でもありますし、なかには公立の保育園に変わった先生方も何人かいたりだとか、それぞれの事情で退職される先生もいますので、その間、法人内での異動で何人か来てもらったり、人材紹介会社から紹介してもらったり、ただその先がなかなかいないといった大変苦しい状況であることをどうかご理解いただきまして、できましたら子育て支援課さんとお話させていただいてすぐにやめるというような無責任なことを私どもも考えておりませんので、どこかのタイミングということの中でお話をさせていただいて、あと2年は待つてほしいとのお話をいただきましたので、あと2年はなんとか90名定員で運営させていただき、できましたら次の事業者さんにしっかりと引継ぎをさせていただくとか、勝手ではございますけれども、どうか先々のことはご検討いただけますようお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。</p>
諸岡会長	<p>高砂福祉会より説明が終わりました。高砂福祉会に対して、ご質問等ございましたらよろしくお願いたします。</p>
今井副会長	<p>うちも私立の認定こども園ということで、先生がおっしゃるように、退職職員の確保をどういうふうにするのだろうか大変厳しいのだろうかというところを感じます。</p> <p>それから、富津市の児童減の中で、私立の私たちがどういうふうに残っていくのか。その辺についてもやっぱり公立、私立ということでは私立の運営って非常に厳しい部分があって、今までのご苦労大変だったのだろうかというふうに</p>

発言者	発言内容
高砂福祉会：篠塚 理事長	<p>思っています。これから私もそんな苦勞を続けていかななくてはいけないのかなというのも思うのですけれども。</p> <p>ところで、ここには定数が記載されていますけれども、実際の児童数ですよね。これについて、もし、来年度4月からの利用予定者数とかがわかっておりましたら教えていただきたいと思います。</p> <p>今現在、102名をお預かりさせていただいて、年長の25名が今年度卒園します。そうすると77名になりまして、そのあと4月に何人ぐらい入るのだとか、入っていただけるのか。そうなったときに、卒園児の25名は以上児であって、今度入ってくる児童25名全員が以上児の入所とは限りません。ほとんどが未満児の0、1歳と考えますと、0歳のクラスの定数とか適正な人数からすると、あと残りの13人ぐらいの3歳以上児が入ってくると90名ぐらいが妥当で、今現在120名の（補助金）単価に特別にさせていただいておりますので、本当にそれは感謝しております。200名の定員がずっと150名ぐらいでやってきましたので、その間がずっと毎年赤字でしたので、それで単価分もその定数を下げさせていただいたおかげで、ただ、それでも150名定員に対し120名しかマックスいなかったときがあり、その厳しいなかで今後考えられるのは90名がぎりぎりということです。</p> <p>さらに、その翌年を考えると、いまの4歳児が同じように出ていくというこの現象がずっと続いていきますので、その90名で耐えられるのがあと2年だろうと思っています。</p> <p>それで待機児童がいて、職員さんがお入りできればということがあるということなのですけれども、職員の確保はいくつかのエリアでやっておりますけど、人材紹介会社にいないため断られてしまう。いろいろ求人もやっておりますけど、</p>

発言者	発言内容
今井副会長	<p>なかなか他のエリアにしか要望がないというのがここ数年続いておりましたので、そういったことも含めて限界であります。いま考えると、すでに限界を超えていたのかなと正直思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、先生の方から77名ということをおっしゃっていただきましたけれども、そうすると、各0歳児から5歳児までの定数をオーバーする学年というのはないというふうに捉えてよろしいでしょうか。</p>
高砂福祉会：篠塚理事長	<p>90名にもなるかどうか分からない状況の中で、私どもの勝手な申し出になっておりますので、この状況を保護者の方が聞いたときに園を継続するかどうか、これさえも分からない状況だと思います。</p> <p>なんとかギリギリやっていける定数、保育単価と言いますけれども、その辺を踏まえて90名ということが経営分析的に出た数字なので、その中で勝手申し上げますけれど、精いっぱいやらせていただけたらと思っております。</p>
今井副会長	<p>定数はこの定員を超える学年はないという質問をさせていただいたのですが、それについてはオーバーする見込みはないということよろしいのでしょうか。</p>
高砂福祉会：木村青堀保育園長	<p>青堀保育園の園長の木村と申します。本日はお時間をいただきましてありがとうございます。</p> <p>来年度の定員については、現在0歳児の希望者の方もたくさんいたので、職員と子どもの状況をみていま6名から9名までの0歳児、その9名が今後進級していくということもあ</p>

発言者	発言内容
今井副会長	<p>りますので、そこにあわせていくとやはり定員ぎりぎりですし、来年度の職員もこれからというところもありますので、可能性としては今の定員では少し厳しいかと思っています。</p> <p>あとは、保護者の方たちが希望される状況によるかと思いますが、職員の状況等をみると、現状としては定員でぎりぎりやっていくのが精いっぱいかなというところになります。</p>
諸岡会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ほかにございますでしょうか。</p>
都倉委員	<p>都倉と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>保育士の確保が難しいというふうに再三おっしゃってられましたけれども、実際にお話なんかで聞くと、数年前にまともって保育士の方が辞められたとかというような話を聞いているところではあるのですけれども、そういった中で、職場の環境、法人として環境を改善すべく、なんらかの方策を打たれたのか、その辺についてお尋ねしたいと思います。</p>
高砂福祉会：篠塚理事長	<p>いまのご質問で、退職者が一時期重なったときがもちろんございますけれども、私どもの処遇改善や職場環境については、法人の方針として職員を家族同様にと考えておりますので、そういったところでは私の立場から申し上げることではないですが、職場関係は良好でございますし、職員の健康チェック等もきちっとさせていただいております。</p> <p>また、私どもは ISO の認証取得を取っておりますので、きちんとしたルールに則った形で対応をさせていただいています。</p> <p>ただ、それだけではなく、なによりも人間関係としてはた</p>

発言者	発言内容
都倉委員	<p>いへん良好で、とてもよく職員がやってくれていますので、とても良い状況ですので、そういう職場での環境の悪化とか劣悪とかそういうことは正直申し上げてないです。休憩時間にしてもそうですし、ルール規則に気を付けています。サービス残業なども禁止しておりますので、そこは本当にルール化させてもらっています。ご理解いただけたらと思います。</p> <p>保育士等の職員のことだけを言っているのではなく、例えば実際により良い状況づくりですとか、そういった法人としてのなんらかのお考えと伺いますか、そういったものはなかったでしょうか。</p>
高砂福祉会：木村 青堀保育園長	<p>園児の環境については、開園当初からそうですが、最新の教材でしたり、子どもたちのためというところでは本当に優先して下さって、私も公立で非常勤として1年務めさせていただいたあと、民営化になってという形で平成18年から15年間こちらの方で勤めさせていただいています。その中でも、常に子どもたちのなにを優先にしていくのかということの理事長先生の思い、それを職員も熱心に掛け合っていく中で、いろんな最新の教材だけではなくて環境の機器とか、あとは新型コロナウイルスについての感染予防対策としての空気清浄機だったりとか設置物というのはすぐに準備して下さったりということでは、私たち職員も園児も含めて快適に過ごしていますし、保護者の方々からも「感染予防して下さいありがとうございます」という声、それから、そういった教材とかの取組については、私が携わった中では高い評価をいただいているのではないかなというふうに感じています。そういったことで、なにかご意見やクレームを受けたということは今までありませんでしたので、そこは自信をもつ</p>

発言者	発言内容
都倉委員	<p>てお伝えしたいなとは思いますが。よろしいでしょうか。</p> <p>はい、ありがとうございました。</p>
諸岡会長	<p>ほかになにかありますか。</p>
古川委員	<p>清和大学短期大学部の古川と申します。よろしくお願ひ申し上げます。保育士の養成をする立場からお話させていただきたいと思ひます。</p> <p>先ほどから保育士の確保が非常に難しいというお話でございますけれども、実は養成校もまったく同じ状況であります。</p> <p>2年前でしたか、民間の調査がございましてその調査によりますと、千葉県内の当時の高校3年生の進路アンケートの結果に、保育を志す高校生の数が県内にある養成校、大学・短大・専門学校の想定人数よりも下回っていたという調査結果がございまして。</p> <p>私どもも、従来収容定員120名でやっていたけれども、数年前に収容定員を100名に変更いたしました。それでも現在の充足率は70%でございまして。</p> <p>ですから、保育士不足の背景には保育を志す高校生の数が減っているということです。そのためには、養成校としてなにごできるかと言いますと、保育の仕事の魅力を高校生に対して話す機会として高校を訪問したり、あるいはオープンキャンパス等でそういう機会を多く設けておりますけれども、とにかく保育を志す高校生をどのように確保するかということが喫緊の課題でございまして、現場の先生方の知恵をお借りしてなんとかその保育士を確保すべく、方策を早急に考えなければいけないなと思っているところでございまして。</p>

発言者	発言内容
高砂福祉会：篠塚 理事長	貴重なご意見ありがとうございます。
諸岡会長	ほかになにかございませんでしょうか。
岩濱委員	<p>イオンモール富津の岩濱と申します。</p> <p>退職者が非常に多いということなのですけれども、私どもも全然違う事業ではあるのですけれども人手不足という点において、店舗事業には非常に大きな課題となっておりまして、なかなか人手が集まらないというところがあります。</p> <p>一方で、なかなかお子さんを預けるところがなくて、仕事に就けないという声をいただくことももちろんあります。</p> <p>なかなか明るい未来が見えてこないというところをなんとかしたいなという思いではあるのですけれども、伺いたかったのは、保育士の方が退職される理由の部分というのが一番は結局どういったところなのかお伺いできますか。転居であったり、ご結婚であったりとかもちろん多いですけれども、もしくは転職それは給与面であるとか、そういったところは実際どういうふうな理由なのでしょう。</p>
高砂福祉会：篠塚 理事長	<p>給与面ってことはないと思います。ただ、若い年頃の先生もおりますし、結婚、出産、親の介護、皆さんそれぞれがそれぞれの家庭の事情によるということが多かったように思います。</p> <p>それから、年齢的な部分で、公立の試験が受けられるのがラストの年齢なのでということで、公立の試験を受けられて公立の施設に異動された先生もおります。</p> <p>ですから、どうしても退職者が多いと、なにか園側にとと思われるかもしれませんが、処遇的な部分では先ほど申し上げ</p>

発言者	発言内容
岩濱委員	<p>たようにそういったことではないと思います。</p> <p>先ほど先生がおっしゃったように、代々ずっとその流れは変わらなくて、従来であれば人が抜けていくけれども、新しく入ってくる方がいらっしゃった。そのような方がいなくなっているということが一番大きいということですよ。</p>
高砂福祉会：木村 青堀保育園長	<p>はい、そうですね、現状としては。</p> <p>いまお話しいただいたような形で、実際にやはり理由としては20代半ばぐらいの方が多くて、結婚、転職等なんらかのご家庭の事情でということなので、なにか環境が嫌だとかそういうことで辞めた職員はほとんどいませんでしたし、あとはなくなったときの人数にさらに確保するというところでは、やはり採用が難しい状況ではあるというのありました。</p> <p>職員の給与とかそういう面では配慮してくださっていますし、お金がどうこうではないのですが、毎年その職員に見合った給与による賞与の上昇ですとか、サービス残業は全くありません。</p> <p>なので、職員に対しての配慮はしてくださっているんで、そういうところで継続率というのが昨年の退職者は1名のみ、それもご家庭の事情だったのですが、それ以外の退職者はいませんでした。</p> <p>それから、また採用がくるっていうのは先ほど理事長先生からご説明させていただいたところですがけれども、実際ここまでたどり着くまでにいない現状があるというのは、私も例年ずっといてとても感じていることではあります。</p>
岩濱委員	<p>青堀地区が一番保育のニーズが高いと伺ってしまして、将来的に保育のニーズがある中で、御社の方が外れたとしても、</p>

発言者	発言内容
高砂福祉会	<p>そこで保育施設はやっていかないといけないということになるかと思うので、たぶん次に向けての課題であるとか、反省点であるとか、いろいろとお互い発展的なところっていうのが必要になってくると思うので、大変失礼な言い方で申し訳なかったですけども、そういった待遇が悪かったのではないとかそういった話をしたかったのではなくて、今後、保育士の方が働きやすい環境にしていくにはどういったところがあればという点で互いに発展するうえで共有できればと思ひまして。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
諸岡会長	<p>こちらこそよろしくお願ひします。</p>
高砂福祉会	<p>ほかになにかございせんか。</p>
高砂福祉会	<p>ないようでしたら、ここで社会福祉法人高砂福祉会にはご退室いただきます。本日はありがとうございました。</p>
諸岡会長	<p>お時間を賜り、聞いていただきましてありがとうございました。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>(社会福祉法人高砂福祉会関係者 退室)</p>
事務局：中山課長	<p>只今、高砂福祉会から説明等がありました。この会議として、利用定員について意見することとなっておりますので、委員の皆さんのご意見をお聞かせいただければと思ひます。</p>
諸岡会長	<p>はい、議長。</p> <p>中山課長。</p>

発言者	発言内容
事務局：中山課長	<p>ご意見を頂戴する前に、先ほどの高砂福祉会の説明の中に、青堀保育園の早期の事業撤退という言葉がありましたので、これについて市の対応等の説明をさせていただければと思います。</p> <p>保育士確保が困難なことから、入園を希望されるお子さん全てを受け入れることができない状況が続いていることは、先ほどの法人からの説明にもありました。</p> <p>このため、少しでも経営状況を改善できるよう、より収入となる運営費の単価を高くするため、定員を減少させてきました。</p> <p>ところが、収支は改善せず、事業継続は困難であるという法人の判断があり、今年に入って市に対し協議がありました。</p> <p>市として、公立保育所の適正配置を進めていくこと、青堀地区は先ほど岩濱委員がおっしゃってくださったように一番市の中でニーズが高い地域でもあります。青堀保育園を継続していくために、市にも事業者にも互いにとって良いようになにか今までと違うやり方でできないか、お互いwinwinとなるように方策を探していきましょうということで申し入れはしましたが、法人としては早期撤退の考えは変わらず、このタイミングでの表明となりました。</p> <p>法人から在園されている保護者の方への説明がまだなされておられません。法人以外から保護者の方にこの状況が耳に入りますと、いたずらに不安をあおるだけになってしまいますので、正式に法人から保護者説明が行われるまでは、公式に市としても動くことはございません。委員の皆様にもこの趣旨を十分にご理解いただきまして、撤退に関してはこの場限りとしていただきたいと思います。そして、情報の取り扱いにも十分ご留意していただくようお願いいたします。</p> <p>今後のことを皆さん心配されているかと思えます。市とし</p>

発言者	発言内容
諸岡会長	<p>ては、今在園しているお子さんや保護者が、先々に対して不安を持たないで、安心して卒園までの日々を過ごすことができるようにすることが第一と考えておりますので、法人が撤退という考えが変わらない以上、次期法人の決定、引継ぎ準備が行えるよう、公募に係る手続き、準備等を迅速に進めていきたいというふうに考えております。</p> <p>引き続き、民間の運営による私立保育園として継続できるよう、保護者・お子さんのご理解を得ながら進めてまいります。</p> <p>撤退までの間に、次の法人が決まらないような事態は起きないように市も努力します。ですが、万が一というときには、市が責任をもって保育園として存続をさせてまいります。</p> <p>先ほどの法人の説明に対し補足させていただきましたが、本日の会議の議題といたしましては、青堀保育園の令和3年度からの利用定員減少について、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>事務局の方から説明がありましたが、この議題については取り扱いに注意していただきたいと思えます。</p> <p>それでは、議題に戻しまして、定員の方で皆様の質疑等がありましたらお聞かせいただきたいと思いますと思えます。</p>
各委員	(質疑等なし)
諸岡会長	いま法人の方から説明等あったと思えますので、この形でいかせていただきたいと思いますと思えますがよろしいでしょうか。
各委員	(意見等なし)

発言者	発言内容
諸岡会長	<p>特にないようですので、事務局の方から何かありましたらお願いします。</p>
事務局：澤邊課長 補佐	<p>議題（3）につきまして、ご審議いただきましてありがとうございます。</p> <p>今回の届出を受けまして、この後、千葉県へ報告し、令和3年4月からの利用定員減少という形になると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
諸岡会長	<p>利用定員の変更については、ほかによろしいでしょうか。</p> <p>次に、「議題（4）その他」に入ります。委員の皆様からなにかありますでしょうか。</p> <p>本日、これまでの内容で聞き漏らしたこと、確認したいことなどありましたら、挙手いただければと思ひます。</p>
各委員	<p>（質疑等なし）</p>
諸岡会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、事務局の方からその他として何かありましたらお願いします。</p>
事務局：水島係長	<p>それでは、私の方から次回の会議の開催予定と報告事項といたしまして2点ほどご報告をさせていただきます。</p> <p>初めに、次回子ども・子育て会議の実施予定についてご案内させていただきます。</p> <p>次回の第3回会議は、令和3年2月頃を予定しております。また詳細が決まりましたら、郵送等でご案内させていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p>

発言者	発言内容
	<p>続きまして、報告事項といたしまして、2点ご報告させていただきます。</p> <p>まず、1点目は、本日お手元にもご案内させていただきました「ふつつ子育てきずな LINE」の配信が本日から開始されましたので、ご報告させていただきます。</p> <p>この「ふつつ子育てきずな LINE」は、共働き家庭の増加や核家族化が進行する中、新型コロナウイルス感染症による影響により、人とのつながりが更に希薄化している今、親になる不安や子育ての悩みを抱えた保護者に寄り添い、LINEを通じて定期的にメッセージをお届けすることで、切れ目なくつながり続け“孤独な子育て”を防止するために配信するものです。</p> <p>配信内容といたしましては、妊娠期から3歳のお誕生日まで、おなかの赤ちゃんの様子や産後のお子さんの成長・発達、市の子育て支援などの情報をタイムリーにお届けします。</p> <p>市公式 LINE の「ふつつ子育てきずな LINE」のメニューから、出産予定日やお子さんの誕生日などを入力することで登録することができます。</p> <p>市ホームページ、広報ふつつで周知するほか、子育て世代にダイレクトに周知するため、母子健康手帳交付時に、登録用 QR コードが印刷された「おめでとうカード」の配付や、2か月児訪問やお子さんの健診でチラシを配付させていただきます。</p> <p>お母さんだけでなく、お父さんにも登録していただくことで、男性にはなかなかわかりにくい、産前産後のお母さんの体の事ですとか、赤ちゃんの事などを気軽に知ってもらうことができ、男性の育児参加のきっかけづくりにもなるのではないかと考えておりますので、是非ご家族でご登録いただければと思っております。</p>

発言者	発言内容
	<p>また、本日案内用のチラシをご用意しておりますので、お持ち帰りいただいて、ぜひ委員の皆様の方々の周りの方々にも広めていただきたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>次に、2点目の報告事項といたしまして、「2021年版富津市子育て応援ガイドブック」の発行について、ご報告させていただきます。</p> <p>平成29年9月に官民協働事業により、子育て支援サービスに関する情報を一冊にまとめた「富津市子育て応援ガイドブック」を発行いたしました。</p> <p>これは、作成に要する費用をガイドブックに掲載する広告収入により賄い作成するものです。初版の作成から3年が経過し、情報を更新する必要があるため、初版に引き続き官民協働事業により、「2021年版富津市子育て応援ガイドブック」を発行いたします。</p> <p>去る9月に協働事業者を募集しましたところ、初版の協働事業者であります株式会社サイネックスから応募があり審査をいたしまして、令和3年3月の発行に向けて同社と協定を締結したところでございます。</p> <p>初版の発行に引き続きまして株式会社サイネックスと協働発行することで、これまで培われたノウハウを活用し、より親しみやすく使いやすいガイドブックを実現してまいります。</p> <p>今回は初版ということもありまして、この子ども・子育て会議でもどんな情報を掲載したらよいのかご意見を頂戴いたしました。2021年版の発行に向けてお気づきの点等がございましたら、参考にさせていただきたいと存じますので、子育て支援課までお知らせいただけたらと思います。</p> <p>以上で、次回の会議のご案内と報告事項についての説明を</p>

発言者	発言内容
諸岡会長	<p>終わります。</p> <p>(次第5 閉会)</p> <p>それでは、本日の日程はすべて終了いたしました。</p> <p>以上をもちまして、第2回富津市子ども・子育て会議を閉会といたします。</p> <p>委員の皆様には、長時間にわたりご協力をいただきましてありがとうございました。おつかれさまでした。</p>